

## 共同研究シリーズ

南山大学地域研究センター共同研究「ポローニャプロセス以後の  
欧米を中心とした大学制度の変貌と新しい学問状況」  
研究会では 2009 年から 3 年間の研究成果として『大学と学問の  
再編成に向けて』を刊行いたしました。

共同研究シリーズ 5

### 『大学と学問の再編成に向けて』

2012 年 3 月 31 日 初版第 1 刷発行  
編著:加藤 泰史(南山大学外国語学部)



発行者:楠本耕之  
発行所:行路社  
装丁:仁井谷伴子  
組版:鼓動社  
印刷・製本:モリモト印刷株式会社  
ISBN 978-4-87534-442-1 C3037  
[本体] 2,800 円+税

序論		加藤泰史
<b>第 1 部</b>		
第 1 章	「3・11」以後の大学の状況と展望	西山雄二
第 2 章	最近の「教養」論に認められるイデオロギーについて ——ある反時代的人間の遊撃	清水真木
第 3 章	USR とは何か ——CSR の拡張としての USR?	高畑祐人
第 4 章	哲学の「問いの力」 ——高等教育におけるソクラテス的「無知の知」の役割	齊藤安潔
第 5 章	哲学の不親切さに抗して ——オルタナティブな哲学(入門)構想	アンゲリーカ・ クレプス
<b>第 2 部</b>		
第 6 章	リスボン条約発効後の欧州連合におけるドイツの役割	フォルカー・シ ュタンツェル
第 7 章	人権とヨーロッパ統合	アンナ・プリン ツ

第 8 章	内から見たドイツの大学改革	島田信吾
第 9 章	ポローニャ改革 ——ある教授の経験と感想	シュタイネック 羅慈
第 10 章	ドイツにおける大学の社会的責任 ——現状と展望	カロリーナ・グ リュンシュロス
第 11 章	留学生の視点から見たドイツの大学教育改革	松本大理
<b>第 3 部</b>		
第 12 章	対応説としてのカントの真理論	ゲアハルト・シ ェーンリヒ
第 13 章	定言命法と〈道徳の限界〉問題	ラインハルト・ ブランド
第 14 章	人間中心主義、それとも生命中心主義？ ——エコロジカルな倫理学の基礎づけ問題	フリエド・リケン
第 15 章	感性的認識の学としてのエステティカ ——18 世紀ドイツ啓蒙と美学の条件	中澤 武
第 16 章	ゲルノート・ベーメの自然美学 ——自然は作られるものか？	阿部美由起

●ご購入は書店または下記までお問い合わせください。

行路社 大津市比叡平 3-36-21 Tel: (077) 529-0149 / Fax: (077) 529-2885